

## 今年の谷津田での活動への抱負

下大和田と小山の谷津田で活動している皆さんに2010年の抱負を語っていただきました。

### ★下大和田

#### ・今年の抱負

- ① 下大和田の小池さんの田んぼの川沿いの一面だけでも草刈をしてメダカやアカガエルが棲める環境を維持したい。YPP、大塚さんの田んぼだけで手一杯ですが、仮に1枚の田んぼに水を張るだけにしてでも生きものが棲める環境を多く保全したい。
- ② 下大和田で、タシギ、クサシギ、アリスイのいずれかひとつで良いから写真に収めたい。
- ③ 南西諸島か北海道でバードウォッチング。千葉周辺で出会えない鳥に会いたい。(網代春男)

・谷津での田作りには色々な考えがあると思いますが、今までと変わらず自分の信念に基づいて係っていきたくと思います。今年古希を迎え、後何年今のような状態で谷津に係れるかを考える平成22年度ですが、楽しみながら、労を厭わず、時間を惜しまず、出来るだけ自然に触れて、一粒でも多くを収穫し、結果として生き物に良い環境を与えることを願って活動したいと思います。今年も多くの参加者があることを歓迎するとともに、皆さんに目的意識を持って参加していただきたいとも思います。

この飽食の時代、食べ物を粗末にする風潮がありますが、籾一粒、苗一本、稲一本、米一粒の大切さとそれを作り出す大変さを理解していただくように努めていきたいと思っています。最後に、地元の人にとって我々の活動が更に認められるように努力することも大切と思っています。具体的には皆さんと考えましょう(石橋絃吉)。

・上の子が幼稚園の年長組、下の子が1才のときから下大和田に通い始めました。その子供たちも、現在、中2と小4になり、みんないっしょに下大和田に行く機会はだいぶ少なくなってしまいました。今年は何回いっしょに行けるかわかりませんが、できれば、親子で下大和田 YPP に参加して、楽しい時を過ごしたいなあと思っています(江澤芳恵)。

・今年は生物多様性年。継続的に谷津田に通って下さる方が一人でも増えてほしいとの思いから「生き物を育む谷津田米作り講座」をやりたいと考えています(小西由希子)。

・新年あけましておめでとうございます。平成と呼ばれるようになり今年で早22年になります。「光陰矢の如し」と申しますが正にそのとおりですね。

さて、2010年、小生の「今年の抱負」を箇条書きにしてみました。

- ① 心身ともに健康でありたい。
- ② 新しいオリジナルのネイチャークラフトを作りたい。
- ③ 職業としてのネイチャークラフト工房立ち上げの準備をしたい。
- ④ 2009年よりも多く、谷津田の活動に参加したい。
- ⑤ 「日本のうた」等を歌声喫茶風にCEICの仲間と一緒に歌いたい。
- ⑥ 谷津田の「生き物つながりゲーム」を作りたい。
- ⑦ もうちょっと余裕のある時間を過ごしたい。・音楽や映画鑑賞等。

いろいろと今年の抱負を上げてきましたが、はたして幾つ実現できるかな?皆様、本年も昨年同様、よろしく願いいたします(渋谷雄二)。

・10年目を迎える下大和田での米づくりとYPP。1反歩ほどの小さな田んぼですが、実にたくさんの方が訪れて谷津田の自然や米づくりを楽しんでくださいました。今年は次の10年をどのようにすれば継続できるのか考えるよい機会だと思います。さらなる仲間づくり、谷津田の新たな魅力探しを心がけ、楽しく活動を続けていきたいと思いますので、皆さん、どうぞよろしく願いします(高山邦明)。

・2001年から始まった下大和田での谷津田保全のための米づくりは、今年で10年目という節目の年を迎えます。観察会も今月120回を数え11年目に入ります。今年も良き仲間たちとともに、活動していきたいと思っています(田中正彦)。

#### ・谷津田で頑張る

- 1、もう一度、草花・樹木・鳥・昆虫その他の生き物について勉強する。
- 1、多くの人に谷津田のよさがわかってもらえるように努力する。
- 1、自分も楽しむ。(平沼勝男)

・たんぼ作業はもちろんですが、いつもお世話になっている林を、お礼の気持ちをこめながらきれいに手入れをしたいな(福満美代子)。

・谷津田の香りを、一人でも多くの方に届けたいです。そしていつまで変わらない、心の原風景になるそんな谷津田をみんなで守っていきましょう(古川美之)。

・昨年5月の田植えから大福帳を実施して多くの参加者に来ていただいたり、友人を誘ってもらったりして、ご家族でこそっとお越しになったり、満足してもらえたと思います。又、自然の中で遊ぶ機会の少なくなった子供たちと探検ごっこをしたり、谷津田運動会をしたりして外にはたくさん面白い遊び場があることを自分も楽しみながら伝えた



トラのクラフト(渋谷さん作)

いと思います。2004年6月のサポーター研修で提案された谷津田運動会はその年の収穫祭で初演され、5年経ちました。まず今年も継続したいと思います。企業は利益を追求するばかりでなくCSR活動に力を入れる時代になってきたので、環境保全に関する助成申請をしてみたいと思います（南川忠男）。

## ★小山

・YPP 田んぼ、地元の方からお借りしている田んぼが、雑草だらけになってしまふことのないように、がんばりたいです。大椎小田んぼのお手伝いも楽しみです。子供たちともできるだけたくさんお話ししながら、楽しく、田植えや自然観察でたらいいなと思っています（江澤芳恵）。

・昨年は自分の身体的、精神的な弱さと向かい合った一年でした。でも弱った心身を大和田と小山の自然に慰めていただきました。今年は初心と身の程を忘れずに過ごせたらと思います（大友英寿）。

・谷津田には心安らぐ草花や思わず微笑んでしまう生きものがたくさんいます。今年もそれらにたくさん出会えたらいいな~と思っています（齊藤薫）。

・大椎小学校の田んぼ活動のお手伝いも軌道に乗り、毎年たくさんの子どもたちが米作りや自然体験に訪れるようになりました。今年もYPP、学校田んぼを楽しく続けていき、素晴らしい小山の自然や風景がいつまでも続くよう少しでも力になりたいと思います（高山邦明）。

・小山の谷津田では、大椎小学校や地域のみなさんのご協力があって、少しずつではありますが、放棄田を田んぼとして蘇らせることができました。一方で、田んぼの手入れが十分できず、昨年は、田植えを断念してしまった田んぼもありました。今年は手抜きしてでも、田んぼとして維持させていける方法を見つけたいです！また、YPPの活動に協力していただける方を開拓し、谷津田での稲作の楽しさを、一人でも多くの方と共有していきたいです（松下恵美子）



真冬の谷津に遊びに来た子どもの姿がありました  
(小山にて、2010/1/5 撮影：齊藤薫)

## 谷津田いきもの図鑑 No. 37 カシラダカ

カシラダカという名前は野鳥好きでないといふと耳にしたことがないと思いますが、冬の谷津へ出かければ普通に見られる鳥です。姿がスズメによく似ていて、目撃してもスズメと勘違いされることが多いのかもしれませんが。前回紹介したホオジロもスズメ似ですが、きれいなさえずりでよく知られており、一方のカシラダカは冬鳥のため、さえずりを聞く機会がほとんどないのも知名度を下けている理由でしょう。歴史的に見ても和歌に詠まれている例もほとんどないようです。英語の名前「Rustic Bunting」の「Rustic」は田舎くさいとか、質素なという意味で（Buntingはホオジロの仲間の小鳥の名称です）、日本語に直すと地味なホオジロとちょっとかわいそうな名前をつけられています。

その姿はとさかのような頭の毛が何と言っても特徴で、それ故に「頭高」と呼ばれています。緊張するとその毛がますます高く逆立って目立つようになります。有名なサッカー選手ベッカムさんが一時期こんな髪形をしていたのを覚えていらっしゃるでしょうか？その頃は鳥仲間ではカシラダカのことをベッカムくんと呼んでいたものです。もう一つ姿の特徴は胸からお腹が白いことです。わき腹やのどにはまだ模様がありますがそのほかは白く、この部分が赤茶色のホオジロと見分けるポイントになっています。

谷津では20~30羽の群れになって田んぼに降りて餌を探していることが多いようです。ただ、地面に降りているとスズメ色・模様は土に見事に溶け込んでいてカシラダカの姿を見つけることは至難の業で、近づいて群れが飛び立つのを見てはじめてそこにいたことを知ることがほとんどです。地上で何を食べているのか望遠鏡でのぞいてもなかなかわかりませんが、凶鑑などによると草の種や昆虫の卵、幼虫などを探しているようです。私たちが稲刈りの時に落とされたお米もきつとカシラダカが食べてくれていることでしょう。

カシラダカは田んぼの周辺のアン原ややぶの中で休んでいることも多いようですが、それも姿を見るのはなかなか難しいです。でも、チツ、チツ、チツと小さな声を出していますので、そこにいることはすぐにわかります。前回、ホオジロの紹介の中でも触れましたが、ホオジロの地鳴きはチツ、チツと2声なので慣れると聞き分けることができます。ただ、同じように冬場のやぶで過ごしているアオジもカシラダカにとってもよく似た1声のチツ、チツと鳴くので注意が必要です。アオジの方が力強く、どちらかと言うとツィとかジツというような声なのでこちらもベテランバードウィッチャーは聞き分けられます。ぜひ、皆さんも聞き分けに挑戦してみてください。

カシラダカの繁殖地はユーラシア大陸北部のシベリアやカムチャッカです。あの小さな体でサハリンから北海道経由で、あるいは何と日本海を横断してはるばる避寒のために日本にやってくるのです。渡りの前後では多い場合体重が半分くらい減少するというので、晩秋にカシラダカを見かけたら「お疲れさま！よく来たね」と一声かけてあげてください。

春になり北帰行が近づくと、オスの顔は夏羽の黒い色が現れます。また、天気がよい時にはピビ、ピビ、ピョヨ、ピョヨ、チィチィ、チィチィ、チィチク、チィチクと複雑な声でさえずりの練習をしているのを耳にすることもあります。地味鳥のカシラダカですが、谷津へ行けば簡単に見つけることができますので、皆さんも暖かな格好をしてぜひ探してみてください。



小山の林縁で見かけたカシラダカ  
(2008/11/30 撮影：高山邦明)

(高山邦明)



# 里山たんけんレポート

## 第119回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2009年12月6日(日) 晴れ

今日の観察会には千葉大へ留学している環境講座受講の外国の学生さん11名を含む13名の学生さんも参加されました。片言の日本語が話せる方もいましたが、引率の大倉先生と日本の学生さん2人を通訳に初冬の谷津を散策しました。

斜面林の落葉樹は大半葉を落としていますが、一部の木々は黄葉も残っています。木の名札裏には越冬するヤニサシガメの幼虫がかたまっていました。暖かさに誘われて出て来たテントウムシ、まだ頑張っているジョロウグモ、コバネイナゴやオオカマキリの卵、サザンカの花に来ているハナアブの仲間など林縁を観察しながら田んぼへ。それぞれのお国の自然のことなどおしゃべりしながらの散策です。枯れたアシ原の中や林縁の木々にはアオジ、カシラダカ、ウグイス、シジュウカラなど鳥の音が聞こえ、動く影が見えるのですが動きが素早くスコープで捉えても皆に見てもらうことが出来ません。やっと戻る道でモズが一箇所にとどまって盛んに鳴いて尾を回しているところを皆で見ることが出来ました。お腹の大きいオオカマキリもいて手に取ったり、写真を撮ったり人気を博しました。一巡してから田んぼ脇の水路や小川でメダカ、ドジョウ、スジエビ、アメリカザリガニなどを掬って谷津田と生きものの関わりを観察しました。田んぼにはまって足が抜けず大騒ぎをした女子学生さんもいました。きっと日本での良い思い出になったことでしょう。

(参加者 大人21名; 報告: 網代春男)

## 第103回 下大和田 YPP「収穫祭と古代米のもちつき」

2009年12月19日(土) 晴れ

谷津に着いたとき、車の温度計は2度。これは寒くて大変かもしれないなあ、と思って外に出てみると晴れ渡った空から暖かな日差しが降り注ぎ、風もなく、絶好の収穫祭日和でした。今年の米づくりに参加した方が次々と集まり、気がつくイベント広場は人でいっぱいでした。もちつき用のお米を蒸す人、焼き鳥や焼き魚、豚汁の用意をする人、たき火を起こす人などなど、みんな得手分けをして準備をしました。お餅は2升ずつ5回つきました。最初は大人がこねてつきます。子どもたちは早く自分でもついてみたいと行列を作って順番待ち。ヨイショ、ヨイショの声に合わせて元気いっぱいにつきました。子どもたちは小さな杵を使いましたが、中には大人用の杵でついでしまうツワモノも！ ついたお餅は定番の醤油に海苔の他に、きなこ、あんこ、甘い醤油味、ネギおろし、納豆など様々な味付けで楽しみました。



最後に記念撮影 (撮影: 田中正彦)

自分で育てた緑米のお餅なので味は格別です。今回も玄米餅もついてみましたが、お米の味がしっかりして好評でした。

お腹がいっぱいになったところで、子どもたちは常連の渋谷さん手作りのボーリングゲームに興じました。子どもたちの元気な歓声が谷津に響いているのはいつ聞いてもいいものです。たき火の周りも常に子どもたちが陣取ってふだんはできない火遊びを楽しんでいました。

(参加者 大人37名、小学生17名、幼児10名; 報告: 高山邦明)

## 第51回 小山町 YPP「緑米の脱穀」

2009年12月5日(土) くもり

昨年度まで小山 YPP ではスタッフのみで脱穀を行っていたのですが、今年度初めて、YPP の活動日に脱穀を行いました。足踏み脱穀機や千歯こきを初めて見る子供達も、すぐにこつをつかんで大活躍！ 脱穀では性格が出るようで、指先で丁寧に最後の一粒までしごいてくださった方もいらっしゃいました。お陰様で約19kgの粉を収穫できました。

田んぼでは晩生の緑米の稲刈りも。後日脱穀したところ、約5kgの粉がとれました。合わせて約24kgの粉から何kgの玄米が出てくるかな？ お昼にはあたたかい味噌汁をいただきました。初参加の中学生の自己紹介もあり、盛り上がりました。ぜひまたいらしてくださいね！

(参加者 大人7名、小中学生6名; 報告: 大友英寿)



みんなでぎやかに脱穀作業 (撮影: 榎本一雄)

## <谷津田・季節のたより>

### 小山町

- 12月5日 暖冬のせいかハキダメギク、リュウノウギクなど秋の草花がまだ咲いている(高山)。  
12月23日 今年は冬鳥が少なめ。刈り残した田んぼにいるスズメの群れにオオタカ?が急降下し、1羽を捕まえて林に消えていった(高山)

### 下大和田

- 12月27日 アシ原はアオジやカシラダカ、アカハラ、ベニマシコなど冬鳥の声でにぎやか(高山)。  
12月28日 ルリビタキやアリスイの声を聞く(田中)。

## イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ? と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、YPPのイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうして、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先(いずれも): ちば環境情報センター (TEL&FAX: 043-223-7807 E-mail: hello@ceic.info/)

ご注意: ・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないください。

- ・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。
- ・小学生以下のおさんは保護者同伴で参加ください。
- ・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任でお願いします。

## ▼第104回「どんど焼きと昔遊び」

年明け最初のYPPは恒例のどんど焼きをし、火を囲んで昔なつかしバイゴマやけん玉などの遊びを楽しみたいと思います。火起こしにも挑戦しますよ!

日時: 2010年1月10日(日) 10:00~14:00 \*小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。また、ご連絡いただければ地図をお送りします。)

集合: 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に10:00(JR千葉駅10番成東あるいは中野操車場行きのちばフラワーバスで45分<千葉駅発8:53、9:08、9:23など> 料金は520円)

持ち物: 弁当、お椀・お皿・はし、飲み物、もしあれば、正月飾りなどどんど焼きで燃やしたいものや昔あそびの道具、軍手、敷物など。

参加費(資料代等): ちば環境情報センター会員および家族100円、一般300円、小学生未満無料

主催: ちば環境情報センター 共催: ちば・谷津田フォーラム

## ▼第121回 下大和田2月の谷津田観察会とごみ拾い

植物の冬越し観察とバードウォッチングで谷津を巡ります。午後まで時間の取れる方は田んぼの草取り作業にご協力いただければと思います。

日時: 2010年2月7日(日) 観察10~12時 午後は田んぼの作業など自由活動 \*小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(下大和田YPPに同じ)

集合: 下大和田YPPに同じ

持ち物: 筆記用具、飲み物、長靴、帽子、敷物、ゴミ袋、午後まで活動する方は弁当など

参加費: 100円(小学生以上、資料代など)

主催: ちば・谷津田フォーラム 共催: ちば環境情報センター

## ▼第52回 小山町YPP「自然観察」

冬本番の谷津を散策し、野鳥などの観察をします。寒さ対策を十分してお出かけください。

日時: 2010年1月23日(土) 10:00~12:30 \*小雨決行

場所: 千葉市緑区小山町 リンドウ広場  
(ご連絡いただければ地図をお送りします)

持ち物: 飲み物、長靴、軍手、帽子、敷物など。

参加費: 100円(小学生以上、資料代など)

主催: ちば環境情報センター

編集後記 新年あけましておめでとうございます。下大和田でのYPPの活動は今年で10年目を迎えます。皆様のご協力を得て、ここまで来ることができました。これからもお米作りを中心に楽しく続けていきたいと思ひます。折りしも今年は生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)が10月に名古屋で開催されます。生物多様性という一般にはちょっと馴染みの薄いテーマの大切さを谷津田での活動を通じて広くアピールしたいと思ひます。今年もどうぞよろしくお願ひします。

(高山邦明)